

大学での授業②

菊池 幸太郎

中国に来て三か月が経ち、太原市はますます寒くなってきました。また大学内でもマスクや防寒着を着る生徒が多くなってきたと感じます。今回のレポートでは、前回紹介しきれなかった口语(会話)の授業と精読(総合)の授業について書きたいと思います。

口语の授業では全てが会話に特化した授業とはいえません。ほかの授業同様に会話の教科書があり、それに沿って授業は進んでいきます。教科書の中に「○○」について話してみようなどの問題があったときは、ほかの生徒と会話をします。またその時は、先生が積極的に自分たちのオリジナル性を求めてきます。その為、硬い会話方式ではなく、自然な会話の力を伸ばそうとしてくれます。ほかにはクラスに10か国以上の生徒がいる国際性を生かして、自国の美食(おいしい食べ物)を紹介しました。その際に使用する写真はWechat(中国版ライン)のグループ内で共有します。先生が生徒に見せたい資料などもすべてこのWechatで共有されます。また、交代でスピーチをする機会もあります。ここでは中国で起きた様々なエピソードを聞くことができます。授業を通じて感じたことは、会話の授業だからと言って会話ばかり練習するわけではありません。また会話の練習中も自分から積極的に話さないと、何も話さず授業が終わってしまいます。

総合の授業では主に文法を習います。また授業数も一番多いので、自分が一番大事な授業だと思います。総合の先生は授業の仕方が上手く、授業中は中国語以外の言語を一切話しません、自然とみんな理解できます。ほかの生徒が英語で質問しても、なんとか中国語を使って理解させようとします。授業中は文法以外にも為になる知識や、教科書には載っていない内容もたくさん教えてくれます。例えば中国には56もの民族がいます。しかし最近では新たな民族が出てきたといいます。それは低头族や月光族です。低头族はその名の通り頭が低い民族です。これは携帯電話の普及によって常に携帯を見ている人(下を向いている人)を指します。また月光族はすぐにお金を使ってしまう人たちを指します。もちろんこれは冗談ですが、中国人の友達に話すと笑ってくれます。授業を通じて中国の文化など様々な事を知ることができます。精読(総合)の授業は山西大学で中国語を勉強するにあたって、非常に大事な授業だと感じます。

今月紹介したい中国の食べ物は大盤鸡 (da pan ji) です。大盤鸡は一つの麵料理です。少し太めの麵に醤油風味の鶏肉とジャガイモがのっています。また、銀の入れ物が特徴的です。麵は意外と噛み応えがあり、うどんに似たところがあります。油が比較的多い中華料理に比べて、さっぱりとして食べやすいです。



大盤鸡の写真 (右)

食堂のメニュー (左)